

闘いの歴史でつくりだした「もんじゅ」の廃炉！

福井県平和・環境・人権センター
事務局長 宮下正一

(1) はじめに

エネルギー源が、永久に生み続けられる「未来のエネルギー」として建設された高速増殖炉「もんじゅ」は、調整運転をはじめて出力 40%段階でナトリウム漏れにより火災事故を起こしたのです。

以来、試験を再開しようとして事故を起こし、今日まで本格稼働することなく 2017 年 12 月 21 日の原子力関係閣僚会議にて「もんじゅ」の廃炉が決定いたしました。

長年にわたる反対運動により、この日を迎えることが出来ました。

全国の皆様に心より感謝申し上げます。



もんじゅが見える敦賀市白木海岸での集会

(2) 県民会議結成は、「もんじゅ」を認めない福井県民の意思

福井県にある原子力発電所は、1970 年代に 6 基、1980 年代に 6 基、1990 年代に 3 基が建設され稼働していました。

60 年代中ほどから後半にかけて建設を予定された市町村において漁民や農民に労働者も加わり激しい反対運動が起きています。

しかし、高まる反対運動にも関わらずに原発が次々と建設され、稼働してしまいました。

そのような時期に高速増殖炉の話があり、この危険性を訴えたのは高木仁三郎先生や久米三四郎先生だったのです。

県内において数多く開かれた学習会により、「もんじゅ」の危険性を知り、反対運動が高まってきたのです。

その中で、自民党員で敦賀市会議員であった磯辺甚三さんを会長とし、社会党の市会議員だった吉村清さんが事務局長で、1976 年 5 月に結成されたのが、「高速増殖炉等に反対する敦賀市民の会」でした。

「これ以上の原発はいらない」のスローガンで同年の 7 月に結成されたのが、「原子力発電に反対する福井県民会議」なのです。

この会の代表は、医師、弁護士、漁師(自民党市会議員)、被爆者の会会長、県評議長が就任して社会党と共産党も加わったのです。

福井県民全体を代表したような形で発足して、反対運動を県内全域で開始しました。

「絶対もんじゅだけは止めるぞ」との強い意思により、反対運動が県内各地に広がったのです。

反対運動が最大限に結実したのが、1982 年の 7 月 2 日に行われた高速増殖炉「もんじゅ」の第 2 次公開ヒアリング阻止闘争でした。

「公開ヒアリングをさせなければもんじゅの建設を阻止できる。」との思いは、最大限に高まり、街頭宣伝やビラ配り、総評への支援要請と多岐に渡った運動が進められました。

特に、県評青年部のメンバーが敦賀市に住み込み、自治労大阪府本部青年部の支援をはじめ市民団体や県評青年部により、毎日敦賀駅前でのビラ配り、日中の街頭宣伝カーによる市内街宣、夜間の各町内での学習会の開催などを1か月間やり抜いたのです。

7月1日の夕方から始まった集会は、夜を越して翌日の早朝からヒアリング会場を9300人もの人々が取り囲みヒアリング阻止を目指したのです。

ヒアリングは、圧倒的な数の機動隊に守られ、開催されてしまいました。

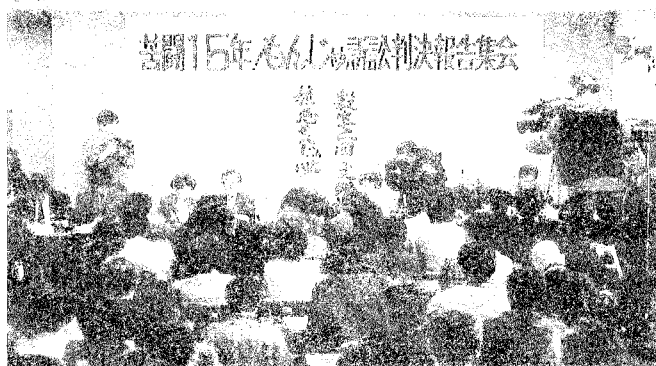
それなら裁判でと、「もんじゅ」の周辺住民44人が、1984年9月25日に国の設置変更許可をめぐる無効確認の行政訴訟と動力炉・核燃料開発事業団による建設・運転の差し止めを求める民事訴訟を起こしたのです。

2000年3月22日に福井地裁で敗訴。

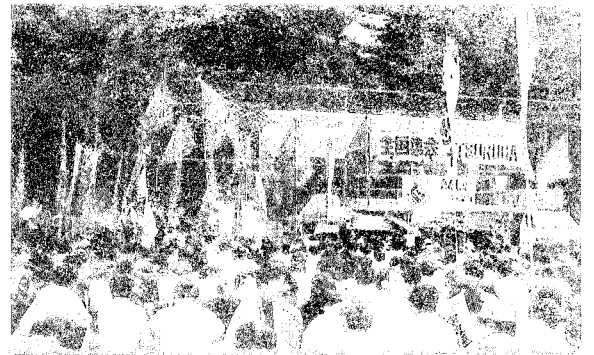
2003年1月27日名古屋高裁金沢支部で勝訴。

2005年5月30日最高裁で敗訴。

最高裁で逆転されはしたものの、原子力発電所の建設や稼働を巡る裁判において、初めて裁判に勝った歴史を作り上げることが出来ました。



最高裁判決後の報告集会



もんじゅを廃炉に！全国集会

この裁判では、原告団を応援した科学者や弁護士が、もんじゅが持つ多くの問題点について科学的に指摘・追及したのです。

その結果、原子力研究開発機構(組織が3回変わっています)は、大規模な改修工事を行わざるを得なくなったのです。

もんじゅ裁判は21年間に及びましたが、そこで得られた科学的な論拠は大きな財産となると同時に、もんじゅがもつ危険性を社会的に暴露したのです。

(3) 無責任な安倍内閣

国策として「もんじゅ」の建設を進めてきた政府・自民党は、「もんじゅ」の廃炉を決めるにあたって僅かな人数で構成する原子力関係閣僚会議で決定したのです。

1兆2000億円もの国民の税金をつぎ込んできたのなら、少なくとも国会での審議や国民への丁寧な説明をすべきだと思うのは、私だけでしょうか。

巨額な税金をつぎ込み高速増殖炉の研究を進めてきたのに、その研究がどこまで進み、どのようになっただけの研究成果を一切確認することがありませんでした。

そして、投じられた税金に対する評価やその責任の所在、お詫びの言葉もないのです。

そればかりか、今後は燃料を増殖しない「高速炉」の研究を進めると発表しています。

それも原型炉であった「もんじゅ」を大きく超える実証炉として開発をするのですから「もんじゅ」以

上に莫大な資金が必要ははずですが、その合意形成も一切ないのです。

本来これらの問題は、国会で追及して以下のことを明らかにすべきだと思います。

- ① これまで進めてきた研究課題と達成できた成果
- ② 上記のことに対する費用対効果について
- ③ もんじゅが一度も本格稼働できなかった理由
- ④ そのことに対する責任の度合いとその責任をだれがどのように取るべきなのか
- ⑤ 以上のことに対して次への政策をどうするのか

これらのことが正しく行われれば、高速炉開発を進めるなどと言えるはずもないのです

(4) 次から次と起きる事故

福井県には15基もの原発が建設され、稼働してきました。

その中で次々と事故が起き、福井県民の心を揺さぶり続けました。

その事故の歴史を少し書きあげてみます。

- ① **1976年**12月7日—美浜原発1号基で、1973年4月に燃料棒2本に折損事故があったことが発覚。
- ② **1977年**5月31日—敦賀1号基の定期点検中(以後、定検と言う)に原子炉停止時冷却系配管のひび割れを発見。
- ③ **1978年**2月15日—高浜1号基の定検で、46本の蒸気発生器細管にひび割れを発見。
- ④ 同年12月19日—高浜1号基の蒸気発生器細管35本にひび割れ発見。

1979年1年間の事故

- ⑤ 2月24日—美浜3号基の制御棒案内管支持ピン全部にひび割れの疑い。
- ⑥ 3月22日—美浜3号、高浜2号で「たわみピン」の損傷を発見したと発表。
- ⑦ 2月22日—高浜2号で配管のひび割れと冷却水漏洩事故があったことを「福井県が国の指示で伏せていた」ことも判明。
- ⑧ 3月22日—スリーマイル島原発で大事故発生。
- ⑨ 7月14日—大飯1号で、冷却材ポンプ遮断機トリップ誤信号により原子炉自動停止。その際、主蒸気逃し弁が作動して主蒸気管相互の圧力不均衡によりECCSが作動。
- ⑩ 8月11日—資源エネルギー庁が、上記の事故の原因は、「ステンレス製のはずが銅合金製だったため」と発表。
- ⑪ 9月3日—敦賀1号で主蒸気管サンプリング配管から放射性蒸気漏れにより原子炉停止。
- ⑫ 10月24日—美浜2号で蒸気発生器細管から放射能漏れ。
- ⑬ 11月3日—高浜2号で、1次冷却水80tが漏れる事故。
- ⑭ 12月1日—県民会議が、10月9日に大飯1号で1tの緊急冷却水漏れ事故があったことを発表。国と県は軽微な事故で発表の必要がなかったと弁明。

1980年1年間の事故

- ⑮ 1月21日—資源エネルギー庁が、美浜2号で新たに23本の蒸気発生器細管の腐食が見つか

り、先の2本とともに閉栓。原因となった水処理剤のリン酸ナトリウム除去を対策したとして安全委に報告。

- ⑩ 1月28日—資源エネ庁が、「定検中の大飯1号で燃料棒1本から放射能漏れ」と発表。
- ⑪ 5月26日—資源エネ庁が、「高浜1号基で整流板のひび割れ、大飯1号で燃料集合体のコイルスプリングに損傷」と発表。
- ⑫ 7月31日—高浜1号基の定検で、蒸気発生器細管69本に応力腐食割れが見つかり閉栓。
- ⑬ 10月13日—定検中の高浜1号でECCS系に1次冷却水漏れを発見。
- ⑭ 10月16日—定検中の大飯2号で燃料集合体のコイルスプリング9体に損傷。美浜1号で燃料棒1本にピンホール発見。美浜3号で整流板6体全部にひび割れ発見。

1981年1年間の事故

- ① 4月1日—敦賀1号で1月に給水加熱器ひび割れ事故が発生していたことが発覚。
- ② 4月18日—通産省が、敦賀1号の一般排水路から高濃度の放射能検出と発表。
- ③ 4月23日—大飯1号で4月20日に1次冷却水の大量漏れがあったことが発覚。
- ④ 5月14日—定検中の大飯1号で蒸気発生器細管5本に応力腐食割れとみられる異常信号を発見。4月23日には制御棒クラスタ1体の落下事故も。
- ⑤ 5月20日—定検中の美浜1号で、1次冷却水3tが漏れ、15人が被ばく。
- ⑥ 5月28日—定検中の「ふげん」で廃棄物処理系タンクにひび割れ。数百ccの汚染水が漏れた。
- ⑦ 10月13日—「ふげん」で1次冷却水漏れ、原子炉停止。再稼働後にタービン異常。
- ⑧ 10月22日—大飯1号の蒸気発生器細管26本に応力腐食割れ。外側の細管と合わせ、754本に施栓と発表。高浜1号では、燃料棒1本にピンホール。
- ⑨ 11月17日—定検中の大飯1号の燃料棒1本にピンホール。

1982年1年間の事故

11件の事故が起きました。

1983年1年間の事故

6件の事故が起きました。

1984年1年間の事故

7件の事故が起きました。

1985年1年間の事故

8件の事故が起きました。

1986年1年間の事故

5件の事故が起きました。



もんじゅ第1次公開ヒアリング阻止行動